

磐梯朝日遷移プロジェクト平成 26 年度連携研究成果報告書

裏磐梯湖沼の生物相および周辺植生の総合調査

黒沢高秀・塘 忠顕・難波謙二・廣瀬孝太郎・木村勝彦

これまでそれぞれの研究者が裏磐梯地域で個別に行ってきた湖沼における生物相調査や周辺植生の調査、水質の化学的性質の調査を集中的に行い、裏磐梯でモデルとなるような湖沼における生物相同士の間連関性を見出し、湖沼の性質を総合的に理解することを目的に連携研究を進めている。H26 年度は、裏磐梯でモデルとなるような湖沼として、人為的な影響がほとんどないと思われる桧原湖畔探勝路付近の湖沼群（ここではニチレイ湖沼群と仮称）、人為的な影響を受けているが比較的良好に環境が保たれていると思われるレンゲ沼、人為的な影響により一度自然が大きく損なわれた五色沼湖沼群柳沼を調べた。

ニチレイ湖沼群では、これまでに 15 種の水生植物が確認されたが、この中には外来水生植物が含まれていない（遠藤ら, 2015; 遠藤ら, 2015 年 3 月 6–8 日; 首藤ら, 未発表）。底生動物に関してはこれまでに 76 種が確認された。昨年まで外来生物は確認されなかったが、今年度フロリダマミズヨコエビを確認した。湖沼群の周囲の森林では毎木調査を行い、植生を記録した（石川・木村, 2015）。

レンゲ沼では、これまでに 16 種の水生植物が確認されているが、ここでも外来水生植物は見られなかった。今回の調査で新たにマツモが確認されたほか、開花したマルバオモダカが見られた（首藤・黒沢, 2015）。底生動物は 38 種が確認されている。そのうち外来種はフロリダマミズヨコエビのみで、ウチダザリガニなどは未確認である（塘・増淵, 2014）。

柳沼では近年、侵略的外来植物キシノウブとコカナダモを含む 4 種の水生植物しか確認されていなかったが、唯一の在来の沈水植物であったフサモだけが確認できなかった（首藤・黒沢, 2015）。底生動物は 40 種が確認されているが、外来生物はこれまで確認されていたフロリダマミズヨコエビ、ウチダザリガニ、アメリカザリガニなど（塘・増淵, 2004）に加え、タイワンシジミが確認され、計 5 種となった。珪藻類は 13 種と 1 種類の未同定種が確認されている。このうち、*Fragilaria aff. brevistriata* が 65.7% と最も卓越している。

当初に予想された通り、3 湖沼で特に外来生物や絶滅危惧種の種類数などで対照的な状況にあることがわかった。この他、研究室を越えて、専門の異なる学生同士と一緒に調査に行くことが活発化したことも、本連携研究の成果であろう。